

県域 絶滅危惧Ⅱ類



環境省レッドリスト(2018) 絶滅危惧ⅠB類(EN)

以前はカジカの中卵型と呼ばれていたが、現在は別種として扱われる。北潟湖産 全長:約14cm

カジカ科 カジカ属

【全長】17cm

カジカ中卵型

学名: *Cottus reinii*

分布域

北海道と本州の日本海・瀬戸内海に九州北東部の河川に分布する。

生息域

河川の中流～下流域の礫底部を好み生息する。



体色には若干地域差が視られる。

体色は変異に富み、体側には3～5個の暗色斑紋がある。頬部に2本の暗色線がある。鰓蓋後縁には1本の棘があり、胸鰭の軟条は分枝しない。腹鰭は淡色で斑紋がない。胸鰭の軟条数が13～17本、卵の直径が2.2～3.2mmで「大卵型」と若干異なる。食性は動物食性で底生動物・水生昆虫・小魚などを食べる。産卵期は2～4月。オスは大きな石の隙間に縄張りを形成しメスを次々に誘い産卵させる。産卵後オスは卵を保護する。孵化した仔魚は海に下り、全長2cm前後に成長し遡上を始める。

水槽での飼育は可能。冷凍赤虫や活きた甲殻類・子魚などを食べる。夏季の水温上昇に注意したい。水流を造るなど工夫をしたい。

在来種

回遊魚

※ カジカの仲間は卵の大きさが異なる大卵型・中卵型・小卵型が知られ、以前はそれぞれ別種だとされていたが、近年その内の中卵型と小卵型がウツセミカジカとして統合され同一種とされた。